

約20年ぶりに日本に帰国して驚くことは、未来に挑戦する若者が減っていることだ。永田町や霞が関での会議、さまざまな大学、企業、自治体で講話や講演に招かれるが、日本や地方の明るい未来を語り、創造しようという人、特に若者に出会うことが少ない。現状に満足しているので夢など必要ないのだろうか。日本の所得水準を示す1人当たりの国内総生産(GDP)は、実質で1950年の2千億未滿から2000年には2万億超(世界2位)に増え、欲しいものは何でも手に入る時代になった。ただ失われた30年を経て今や1人当たり名目GDPは先進7カ国(G7)で最下位、アジアでも7位と低迷している。



## 針路 国井 修

本社客員論説委員

くにい・おさむ 1962年、大田原市生まれ。宇都宮高、自治医科大学、ハーバード公衆衛生大学院修了。外務省、長崎大熱帯医学研究所教

授などを経て国連児童基金本部、ミャンマー、ソマリアで保健事業を統括。2022年よりグローバルヘルス技術振興基金CEO。東京都在住。

# 未来切り開く若者に夢を

そんな日本の未来を担うのは若い世代だ。こうありたいとの未来を夢描き、果敢に挑戦してほしい。

界の常識ではなく、日本で失敗を恐れている間にリスクもいとわず未来を創造している人間が世界にいることを知った。

持ち、諦めずに挑戦し続け、果敢に前進する人間が多い。そういう若者と一緒に、ニューヨークやジュネーブで重責を分かち合い、ミャンマーやソマリアで難題を乗り越えた。自然災害や紛争を含め世界には多くの課題が山積する。が、諦めず行動することで助けられる命があり、改善できる社会がある

ことを学ぶ。その経験を自国に持ち帰り、祖国のために貢献している若者もいる。

が、23年には13位と年々順位を下げている。それでも幸せならいいが、国連持続可能な開発ソリューションネットワークから発表された24年の世界幸福度ランキングで日本は51位。自殺死亡率が世界一のリトアニアや、凄惨な紛争を経験し今も民族対立がくすぶるコソボと比べても、はるか下である

夢がないという若者には世界に飛び立てと言いたい。

国連機関で働き人事選考にも携わってみて、日本人が少ない理由が分かった。日本国内だけの経験で世界に通用すると思っただけで、何度か応募してだめなら諦める、結局日本は居心地がいいので海外で頑張る必要もないと感じる。合格した若者はどの国出身であっても、大きな夢や強い志を

日本は本当にいい国だ。これほど安全で安心な国、優しく礼儀正しい人が多い国は他にないだろう。そんな日本の良さに誇りを持ちつつも、多くの課題に目を向け、日本の未来を切り開いてくれる若者が増えてほしい。

### 講釈や批判はやめよう

それには年配者が若者の邪魔をしないことだ。彼らに耳を傾け、場を与えよう。未来を語る場、つくる場に若者が少なすぎる。若者への講釈や批判はやめよう。未来は正解のない時代、若者が自分の頭で考え、自ら行動し、われわれができないことに挑戦、成功してもらおう。若者が大志を抱くためにも、年配者が彼らの夢をつぶしてはいけない。